



だより

— つながれ ひろがれ —

第160号
特定非営利活動法人
環境パートナーシップちば

TEL : 090-8116-4633
E-mail : info@kanpachiba.com
<https://kanpachiba.com/>

「若者が主役の環境保全活動アイデアコンテスト」 受賞団体決まりました！

開催日 : 令和6年10月20日(日) 12:30~14:30

開催場所 : 幕張メッセ国際会議場 201 室 A 「エコメッセ2024会場内」

受賞団体 : 1位 千葉県立大網高等学校農芸化学プロジェクト

テーマ「食品廃棄物と鉄くずで作物パワー活性化」

2位 carutena (カルテナ)

テーマ「着なくなった洋服に、第二の人生を」

3位 東邦大学ネイチャープロジェクト

テーマ「都市住民による持続可能な里山保全活動の提案」

昨年度に引き続き、若者の創意工夫による環境保全活動のアイデアコンテストを開催し、活動への支援を行うことで、千葉県の環境活動をリードする若手人材の育成を図ることを主旨とする事業のアイデア募集を行った結果、11団体から応募がありました。審査員による一次審査の結果5団体選ばれ、二次審査は10月20日「エコメッセちば2024」の会場、幕張メッセ国際会議場 201 室 A で開催されました。

二次審査のコンテストに挑戦する5団体は、①東邦大学ネイチャープロジェクト ②千葉県立大網高校農芸化学プロジェクトチーム ③千葉県立長生高校サイエンス部生物班 ④carutena ⑤学生団体グリーンベースでした。11応募団体の内高校は2校でしたが、一次審査にこの2校が選ばれたのも興味深く思いました。

今年は、審査員から応募団体毎に「いいところ、改善点」を書いていただきましたので、応募団体全てにお知らせしました。いいところでは、課題解決へ向けての新しい視点。改善点では、多様な主体との連携など広く呼びかける工夫が必要など記載されていました。今後の活動のヒントにしていきたいと事務局では期待しています。

当日は、5団体自らがエコメッセの出展者、来場者へ向けて応募内容を説明している様子があちこちで見受けられました。プレゼンの順番は当日の抽選で決まりました。高校生は先輩が修学旅行中、受験などと重なり、1年生、2年生が思いを込めてプレゼンしていました。

採点には審査員の点数にコンテスト会場やエコ

メッセ来場者などの投票数も加点され、上記の通り順位が決まりました。授賞式はエコメッセ会場のエコステージで行われ、審査員からは応募団体へのねぎらいと提案事業の実現を期待(応援)していますとメッセージがありました。

今後は応募提案した事業内容を実行するために、活動に関係する、協力してもらいたい団体、事業者、行政などにも声をかけて話し合うスタートアップ会議を年内に行います。年度末には、活動の進捗状況をお知らせする報告会を2025年3月に開催します。

令和5年度の受賞団体の活動紹介は、エコメッセちば2024の当会のブースで行いました。受賞後も元気に活動している様子等を聞くことが出来、今後に継続し応援者も広がる支援が必要と、受託事業者としても再認識しました。

2025年の報告会のお知らせは今後、当会のHP等にもお知らせします。皆さまのあたたかいご支援をお願いします。

(文責：桑波田 和子)



第29回「エコメッセちば2024」報告 ご来場・ご出展・ご協力ありがとうございました！！

エコメッセちば実行委員会

オンライン開催：10月19日(土)10:00～ 会場：エコメッセ HP
会場開催：10月20日(日)10:00～16:00 会場：幕張メッセ国際会議場
会場来場者数：4,500人

第29回「エコメッセちば2024」は、「エコメッセちば HP」でオンラインがスタートしました。オンライン出展の動画紹介及団体インタビューは、「エコメッセちば2025」開催前日まで配信します。まだの方は是非ご覧ください。

会場開催は、お天気に恵まれ、親子、若者、一般、出展団体など多くの方が来場され、どのブースも賑やかで、体験や交流などお互いに楽しい雰囲気が伝わってきました。

今年はSDGsの5つのP (partnership)を意識し、テーマは「みんな地球のレスキュー隊」でした。来場された方が「私も出来る事がある！」と再認識し、行動！を期待しています。

各ブースを体験していただくための「SDGsビンゴ」を初めて実施しました。午前と午後の2回ビンゴ大賞抽選会も行いました。運良く抽選に当たった中に子どもも含まれ、和やかでした。SDGs

マルシェも初めてでしたが、環境への取り組み・配慮など、商品を通して知る機会となりました。屋外では電気自動車等の試乗会、202室の自然の恵み里山あそびものづくり体験、201室Bのリトル・アドベンチャーも、親子連れと説明役の若者などであふれていました。

来年は第30回「エコメッセちば2025」を2025年10月19日に会場開催します。



エコメッセ「リトル・アドベンチャー」報告

学生団体おりがみ 岩澤真理子

今年のユース企画は、「リトル・アドベンチャー」という企画を作りました。

リトル・アドベンチャーは、参加者を探検隊とし、学生が訪れた視察先を再現したトンネル道で、自然を体験しつつクイズや謎解きのヒントを得ながら、抜けた先にある謎解き・クイズを攻略し、お宝を得るというコンセプトで開催しました。

トンネル班は、アーチ部分の材料や固定方法を考えるのに苦労しました。安全と耐久性を満たすよう試行錯誤しました。当日は立体的に表現することができ、トンネル内の写真や魚の展示をじっくりと観察できたことで、印象的に思ってもらえました。

クイズ班は、子どもたちが実際に動きながら問題を解く方式にしました。学生視点と子ども視点では、少々難度に差があったかもしれませんが、私たちが視察場所で学んだ環境問題を楽しく伝えることができました。

ガチャガチャ班は、ペットボトルキャップやシーグラスを使い、マグネットやキーホルダーの制作

に励みました。可愛いキャラクターの景品を手に入れた子どもたちにはとても喜んでもらえました。ご家族からも、ペットボトルキャップを使用した理由や、シーグラスを取った場所などの質問を受け、関心を持ってもらえました。

スノードーム班は、ペットボトルと海洋プラスチックを使った製作体験を通して、資源の再利用と海洋ごみ問題の啓発を目的に取り組み、「おうちでも作りたい」「マイクロプラスチック探したい」といった声もあり、関心を持ってもらえました。参加者から、視察場所や展示に対して質問やコメントをもらえ、企画を通して参加者の環境への関心を深められました。おりがみメンバーとしても、来年はここへ視察に行きたい、来年も参加したいなどの声が上がリ、環境に対して更に興味を深める機会となりました。



エコメッセ2024 団体インタビュー

学生団体おりがみ 中村拓雅

エコメッセちば2024では、千葉市脱炭素推進課様、キッコーマン株式会社様へ学生が団体インタビューを行いました。また、インタビューを元にショート動画を作成し、エコメッセちば公式YouTubeチャンネル、公式Instagram、公式X(旧Twitter)へ投稿し、若年層への情報発信を行いました。千葉市脱炭素推進課様へのインタビューは、脱炭素先行地域に指定された千葉市を訪問し、脱炭素の取り組みについて伺いました。幕張新都心エリアや動物公園グリーンZooエリアでの太陽光発電やゼッチ住宅、モノレールを活用した配線削減、イベントで出た割り箸をバイオマスボイラーで再利用する工夫など、環境に配慮した取り組みを紹介していただき、脱炭素に向けた動きについての理解・関心が強まりました。また、「ちばしエコチャレンジ」に代表されるZEROカーボンアクションでは、小さな行動が大きな環境保護につながるという考え方があり、自分たちが日常生活でできることについて改めて考えるきっかけとなりました。キッコーマン様へのインタビューは、千葉県野田市にある「もの知りしょうゆ館」の見学とインタビューを組み合わせた形式で行いました。しょうゆ館で製造過程とその中での環境への配慮について学んだ後、インタビューで具体的なSDGsの取り組みを伺いました。「地球環境への配慮」では再生可能エネルギーや水資源の循環利用、「食と健康

への貢献」では食品安全へのこだわり、「人と社会との共生」では地域支援や廃棄物の再利用など、サステナビリティの三本柱に基づいた実践が印象的でした。また、創業以来、環境や地域と密接に関わってきた歴史が自然とSDGsに繋がっている点に感銘を受け、学生たちからも「持続可能な社会に向けた企業の役割を知れて有意義だった!」「自分たちも日常から意識していきたい!」という感想が寄せられました。

【団体インタビュー動画】



キッコーマン株式会社_環境安全への取り組み

キッコーマン株式会社_若者へ伝えたい想い



千葉市_MICE エリア

千葉市_ゼロカーボンアクション



千葉市_脱炭素選考地域

エコメッセ出展/夏休みユースボランティア体験の報告

10月20日に行われたエコメッセちば2024に出展した環境パートナーシップちばのブース報告をします。今年は、ユース活動の場発見ということで、夏休みにボランティア活動体験を受け入れてくれた団体さんと、そこに参加してくれた若者の様子を展示で紹介させていただきました。受け入れ団体として協力してくれたのは7団体です。参加する若者はこの夏の暑さでなかなか人数は及ばなかったのですが、それでも良い体験をしてくれたとたくさんの声を聞いています。今回の展示は、このままだと誰も見てくれないということもありまして、受入れ団体の一つである「GOGO ボランティア」の山口さんのご協力で、プラゴミアートのワークショップ(WS)も行いました。プラゴミを丸い台紙の上に貼り、それをさらにツリーに貼ることで完成させるというものです。通りかかる親子連れが、カラフルな作品見本を見て足を止め、WSに参加していきます。親御さん

には、子どもが作っている間に展示を見てもらい、感想や応援メッセージを付箋に書いてもらいました。「里山の活動は楽しそう!子どもと一緒にぜひ参加したい」「海がきれいになる活動をされていて素敵と思いました。将来、子どもにも参加させたいです」といったメッセージが書き込まれていました。



こうして多くの方が足を止めてくれたのも、山口さんのWS協力のおかげです。ユースのボランティアの受け入れをしてくださった団体さんは他にもあるので、ぜひ今度は多くの受け入れ団体さんにも参加していただければと思いました。

(文責：廣田 由紀江)

第29回エコメッセ2024 自然のめぐみで里山あそびの報告

令和6年10月20日(日)の10:00~16:00に幕張メッセ国際会議場2階202号室で家族向け(特非)環境パートナーシップちばの主催で「自然のめぐみで里山あそび」の物づくり体験が開催されました。

参加された家族の主体は子供たちで、里山の木やどんぐりと竹、里海の貝ガラなどを材料とした12種類のおもちゃの中から好みのおもちゃを選び、提示された工作手順図を見ながら作成に夢中になって取り組み、完成すると見守っていた家族から歓声が沸き上がりました。



催しに参加された家族は、午前と午後で合わせて(記録を取っていませんが)大凡300人以上と大盛況でした。

子供たちが選んだおもちゃの中から2種類を紹介します。

■貝殻のペン立て (逆四角錐) 材料は、杉の倒木を加工した板5枚(底板1枚、たて板4枚)をボンドで貼り付けて組み立て、海岸から拾い集めた貝殻を板にボンドで貼り付けた。

■大根でっぽう 材料は、真竹と輪ゴム。加工は、真竹上端の半分を切り落とし弓矢を送り出す竹板①と弓矢を飛ばす方向の竹板②(真中に弓矢を通す穴を開けた)。①と②に輪ゴムを取り付け、弓矢の先に小さな大根を付けて飛ばす。できあがった「大根でっぽう」の試し打ちは201号室で行った。感想:子供たちは奇想天外な動きをしますので注意が必要ですね。(文責:芦川 義勝)

※このイベントはセブンイレブン記念財団の助成を受けて実施しました。

今年も浦安でEボート大会を開催しました

第11回Eボート千葉大会 in 浦安実行委員会 橋本公江

2024年10月27日(日)、浦安の境川を会場に、Eボート千葉大会を開催しました。千葉大会としては11回目、浦安では2回目の開催となります。昨年の2倍の20チームが境川に集結して、熱戦を繰りひろげました。

今年は、国土交通省の「かわまちづくり支援制度」に浦安市が提案した計画が登録され、その記念イベントともなりました。この制度は、河川空間とまち空間が融合した賑わいある良好な水辺空間の形成を目指した計画を募集するもので、令和5年度末時点で264箇所、令和6年度の募集で新たに

22箇所が登録されました。

生憎、衆議院議員選挙と重なったため、市役所チームが出られなくなったりして、チームがなかなか集まらずにやきもきしましたが、初心者チームから強豪チームまで、個性豊かなチームが勢揃いしました。

閉会式では、1位~3位のほか、「盛り上がったで賞」「最高平均年齢だったで賞」(なんと平均年齢76歳!)が表彰されました。来年も「第12回Eボート千葉大会 in 浦安」を開催すべく、実行委員会が動き始めました。



講演会『人新世』報告

温暖化防止うらやす 川島謙治

10月20日(日)、浦安市民プラザ小ホールで、東海大学教授・海洋研究所所長 平朝彦氏による講演会『人新世(じんしんせい) 一人間の地質時代を読み解く』をちば環境再生基金の助成を受け開催しました。以下講演の内容を報告します。

地球が誕生したのはおよそ46億年前で、それ以降の変遷は地層から地球の歴史を読み解く地質時代として『古生代』『中生代』を経て、今、私たちはおよそ1万年前からの『完世代』に生きている。

平氏によると『人新世』とは、1945年以降(非公式)に始まり、人間活動が地球を大きく変えている現在進行形の地質時代で、地球史の中でも最も特異な時代を指す。その間、世界人口は25億人から80億人に増え、エネルギーの大量消費、食糧需要の増大、情報産業やバイオテクノロジーの誕生、グローバル化等により、人間の活動が異常な速度で活発化・変化すると共に拡大し、地球環境に大きな影響を与えた時代で、今の私たちが生きてきた時代とし、この間、生物多様性の喪失や人間活動が原因で暑い夏の長期化や線状降水帯など大雨の発生等の気候変動が起こり、地球の環境は大きく変化している。

持続可能な地球を実現するためには、自然と人間活動を多面的にとらえ、適切に対応し地球と共存することが重要。『人新世』を生き抜き、未来を拓くためには複雑に織りなす世界の様相を解き明かす知の体系(リベラルアーツ)と人間力の育成こそが、環境問題のみならず地球を取り巻く様々な課題へ向けての新たな地球管理の科学技術と社会変革の取り組みの一助となる。

参考図書 平朝彦氏著『科学技術で読み解く人間の地質時代』東海大学出版部



公益財団法人古紙再生促進センター出前講座サポート報告

開催日：10月2日(水) 千葉市立園生小学校(稲毛区)

学年：4年生4クラス 時間：9:15~15:00(2時間目~6時間目)

開催日：10月30日(水) 千葉市立さつきが丘西小学校(花見川区)

学年：4年生1クラス 時間：10:00~11:55

【経緯】古紙再生促進センターより、センターが小学校などで行う出前講座への協力を当会に打診があり、6月7日(金)磯辺第三小学校で授業見学いたしました。(158号掲載)。

今回の依頼は講座のサポート役の依頼でしたので、2つの小学校に小倉と桑波田で対応しました。センター+サポートの出前講座は初めての試みだったようで、センターに関わる業界紙が取材に来ていました。

【講座内容】使用後のコピー用紙から再生紙(手すきはがき)を作ることの体験学習です。センターの講師が、紙の再生について、動画、クイズで知識とモチベーションを上げて行きます。講師は児童とのやりとりがとても上手く、活発な意見が出てきます。

講義の後は、手すきはがき作りです。体験は1クラス毎、理科室で行いました。はがきの作り方及び機材使用での注意点を聞いた後、5人くらいのグループに分かれ各自1枚のハガキを作ります。コピー用紙を破くのもなかなか上手くいかない児童もあり、丸めることはあつても、破くのは生活の中で多くないのかな?と感じました。グループ内の協力も良く、自分の物、他の人の物も同じ気遣いで行動するのは感心しました。

当会のサポート役としては講座の準備、後片付け、体験の際の児童への支援が主でした。安全で児童のモチベーションを上げるサポートを学びました。(文責：桑波田 和子)

「廃食油から学ぶエコせっけん教室 & SDGs 教育」の開催

環境団体とんがらし座・環境カウンセラー 小堀 功

【はじめに】

家庭、飲食店、企業等から排出される「廃食油：植物油」について環境問題、再資源化、SDGs を交え、わかりやすく、楽しい環境学習を実施しました。

- ・日時：2024年8月26日（月）9：00～10：45
- ・場所：松戸市立貝の花小学校
- ・対象：キッズルームの小学生23名
- ・講師：エスケー石鹸 鄭 懿賛氏、とんがらし座 小堀 功

【座学】

・環境への影響について、廃食油の取り扱いで、地球温暖化への影響と下水道へ流した場合の水質環境汚染（川・海）の現状についての説明。

・再資源化の種類

バイオディーゼルとしての燃料、牛、馬の飼料、石鹼としてリサイクル。主に飼料、石鹼が中心。バイオディーゼルは、使用する範囲が限定されるため、普及率はあまり高くない。

・SDGs 教育との関係



「2 飢餓をゼロに」、「3 すべての人に健康と福祉を」、「12 つくる責任つかう責任」「14 海の豊かさを守ろう」についての繋がりを説明

【工作教室】

・せっけんを二個づつ配布し、こねこねしながら、ひとつは、「せっけん本来として使えるもの（香りのみ）」。

そしてもうひとつは、「色付け、香り付けをして楽しめるせっけん」と分けて使えるせっけんを作りました。出来上がったせっけんは



3 日日陰干しをして完成となります。

【最後にまとめ】

今回は、石鹼材料の提供者であるエスケー石鹼の営業担当者とコラボして、基本的なせっけんについての歴史、作り方、技術的な変化について的小冊子（絵柄）を配布したことにより、理解度が深まったと感じています。子供達の笑顔も最高でした。

尚、今回の環境学習講座は、2021年のコロナピーク時に出来なかったため、学校側と日程調整を図った上で開催しました。

「プラスチックに関する学び合い」(2024年11月13日)に参加しました

農林水産省の「食品産業プラスチック資源循環対策事業」の補助を受け、プラスチック容器包装リサイクル推進協議会（以下協議会）が、昨年、食品容器プラスチックの削減努力の活動をする「プラっとサーチ」を立ち上げ、外部に向けた初回の勉強会が「持続可能な社会をつくる元気ネット」の主催で開催されました。今回の出席者は、市民、環境関係等の活動をされている方、研究者等。「プラっとサーチ」のメンバーである「プラっと探検隊」は食品メーカー、生活用品メーカーと印刷業の若手の社員10名、協議会の方、元気ネットの方、合計37名ほどでした。

食品の容器包装には、たくさんのプラスチックが使われています。プラスチックは、「軽い」「成型の自由度が高い」「安い」等という特徴を持ち、パッケージに求められる機能、内容物の「保護」、商品等の「情報」、運搬時や使用時の「利便」を可能にするのに適した素材なので、プラスチックを「無くす」のではなく、「賢く使う」ことが課題です。メーカー側がどのように環境に配慮し、スマート

にパッケージをリニューアルさせているかを、「プラっとサーチ」のホームページ(下記QRコード)で見ることができます。

勉強会の中では、バイオプラスチックや生分解性プラスチックがプラスチック汚染問題を解決する救世主ではない事、プラスチックを紙製に置き換えればいいという風潮も軽率、などの多くの意見や情報の交換がありました。

実際に生活していて資源分別しようにも、まだラベルが剥がしにくい、異素材を分別しにくいなどというパッケージもあり、まだまだ改善の余地はあります。

政治、行政、企業、生活者と立場は違いますが、全員が生活者かつ地球上の生物だという共通の事実を直視し、環境配慮型の社会構築への尽力を続けたいものです。

(文責：中村 明子)



←「プラっとサーチ」のホームページ

《寄稿》

ご存じですか？ 最近の農村での困りごと

金親 博榮（千葉市若葉区在住）

千葉県内の農村風景が大きく変わりつつあります。それは農地、特に畑の耕作放棄地の増大と「ヤード」や「資材置き場」など、フェンスに囲まれ、内部が見えない施設の急増が目につくことです。この種の施設は、若葉区から八街市に続く地域でも、車等の盗難、環境、景観の面からも、地域一帯に心配が広がり、有ってほしくない代表的な存在となっています。

ヤードや資材置き場の建設によって、かつての農村の景観は変わり、県道66号や千葉八街線沿いのように、ヤード銀座の様相を呈してきたところも出てきました。全国的にも、千葉県はヤードの数は20%以上と突出し、県内では佐倉、四街道、八街、八千代などで65%、千葉市内では90か所のうち、若葉区には60以上が集中しているそうです。飲料水を井戸水に依存している世帯が多く、地下水の汚染、健康被害が心配です。またこの種の施設は、規制の厳しい地域から、より緩やかな地域への移転も起きていますので、トラブルの移動では解決にはならず、市町村をまたぐ対策が必要です。

千葉県、千葉市は条例による廃棄物処理の適正な運用により、市民生活の環境悪化、地下水の汚染などを防ぐ指針として、全国に先駆け具体的な対策が取られ、効果を生んでいます。6年4月より県、市ともに、対象物が同一となり、自動車関連の車両・部品の解体、保管方法を規制し、再生資源（木材、ゴミ、コンクリート、プラスチックその他金属類）も対象とする屋外保管の規定を定め、開設が許可制になりました。

千葉市では立地条件を厳しくし、罰則を含む有効な施策の結果、3年を経過して新たな設置は3件と激減しているそうです。しかし、既存の施設については、騒音、光、排水、交通障害など、住民の不安は依然として残っており、この解決が課題として残っています。

令和5年の「農地法」の改定により、農家による農地の保有を基本としてきた法律を非農家に開放した事が、このヤードや資材置き場などの増加に拍車をかけているという側面があります。農業収入が少ない農地は売却、転用され、環境の悪化を招くという事になります。

農地を持たず、経験もない外国人を含む一般人にも、農地としての利用計画を作成するなどして申請すれば、農地の所有が出来ることになったのです。作成された計画をその通りに実現するのは至難の業ですが、食糧の自給率にも貢献し、農業の担い手も増え、人口増加も期待する施策です。しかし現実にはほとんどが空文に終わります。農地の取得後の色々な困難（経済的、人的、技術的）により、計画は頓挫するケースが多いからです。耕されなくなった農地には、雑草、樹木が繁り、「雑種地」へと変化し、非農地となって農地法の制限は外れます。計画は「単なる紙上の事」とする、計画的な「逸脱」も多いのではないかと思います。

もちろんこの行為には、行政による監視、指導があるのですが、現実にはこれがきちんと実施できる体制は十分ではないのです。特に新たな所有者が外国人となると、国境を超えた不在地主となることもあり、大きな困難となります。土地所有願望の強い国の人にとっては、「地主」となることは大きな「夢」の実現です。地価も比較的安価なため、「相場の何倍でも買う」という情報を、売り手の農家から聞いています。

こんな形で、日本の国土が、その地に関心を持たない人、居住していない外国人などの手に渡り、日本社会の安全、平和、秩序を保つことが出来るのでしょうか。それでなくとも不安な世の中、農業の不振、後継者不在に対応する方策に加え、国土の安全確保の視点からの方策も必要とされる時代ではないでしょうか。



運営会議報告

10 月度運営会議

10月10日(木) 20:00~22:00

会場：オンライン (Zoom)

【報告】

- ・R6 年度若者が主役の環境活動応援事業 (委託事業) 進捗状況
- ・印旛沼のオニビン体験会(9/28) 雨天のため中止
- ・だより 159 号発送
- ・公益財団法人古紙再生促進センター出前講座
- ・その他

【協議】

- ・だより 160 号 進捗
- ・エコメッセ出展 (若者応援事業、ボランティア 報告会、里山遊び)
- ・公益財団法人古紙再生促進センターからの相談
- ・2025年度事業(中間支援団体としての活動)
- ・ちば環境再生基金応募の件
- ・その他

11 月度運営会議

11月14日(木) 21:00~22:15

会場：オンライン (Zoom)

【報告】

- ・R6 年度若者が主役の環境活動応援事業 (委託事業) 進捗状況
- ・ちば環境再生基金報告 (ユースボランティア)
- ・セブンイレブン (里山遊び)
- ・公益財団法人古紙再生促進センター出前講座
- ・その他

【協議】

- ・だより 160 号 進捗
- ・いちほら市民大学環境コース 11/26、12/3
- ・ふなばしエココレッジ 11/28
- ・2025年度事業
- ・ちば環境再生基金応募の件
- ・SDGs 学生フォーラム 2025/3/9
- ・若者事業の審査員からの提案内容を若者チームより報告要請

お知らせ

「千葉県廃棄物適正処理推進大会」

日時: 令和7年1月16日(木)13時30分~16時

講演会 13:30~14:45

表彰式典 15:10~16:00

場所: 千葉県教育会館 新館大ホール

(1)講演会

講師: 本田 亮 氏

演題: ユーモアイラストで考える環境問題
~地球の言葉を楽しく伝えるアイデア~

(2)功労者表彰式典

定員: 100 名(事前申込不要、当日先着順)

お問い合わせ: 県循環型社会推進課

043-223-2649

sigen-j@mz.pref.chiba.lg.jp

初開催!

良好な環境創出シンポジウム~水環境を生かした地域の魅力度向上の輪を広げよう

日時: 令和6年12月19日(木) 14:00~16:30

開催形式: Web 開催 定員: 500名

主催: 環境省

参加申込フォーム

https://murc-jp.zoom.us/webinar/register/WN_gVnylHW4RWeb-DAoFIlqyg#/registration

締切: 令和6年12月18日(水)17:00

※申込期間内でも定員になり次第、受付は終了

詳細:

https://www.env.go.jp/press/press_04039.html

「特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば」

環境活動の推進と充実を図るため、市民・団体・企業・行政・学校とのパートナーシップのもと、

「持続可能な開発に向けた目標(SDGs)」や「持続可能な開発のための教育(ESD)」の視点を意識して、さらなる持続可能な社会の実現をめざすことを目的とする。

お問い合わせ

事務局：〒262-0006 千葉市花見川区横戸台 21-13 特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば

Tel : 090-8116-4633 E-mail : info@kanpachiba.com

ホームページ : <https://kanpachiba.com/>

※会費や会員申し込みなどの情報は上記 HPでご確認ください。